

□議員名：岡山 明

1 学校のトイレ環境について

論点	全国公立小中学校のトイレの洋式化率の平均は43.3%である。都道府県別で山口県は最下位の26.7%。県内で本市はワースト3の18.4%。そうした状況の中で、厚狭小学校11.3%、高千帆中学校4.4%だが、この数字、洋式化率をどう思うか。
回答	市内で最も児童生徒が多い小中学校であり、便器数も多いということで洋式化率が低い状況である。まず校舎が古い、そのために、トイレのスペースが狭く洋式化しづらい状況である。増築するか、建てかえる時に、一気に変更をかけることが最善であると考えている。

論点	避難所としてのトイレ環境はどうか。
回答	学校施設は避難所にもなっている。まず、体育館が一番最初に避難所として開始される。屋内運動場の洋式化率は50%を超えているが、早くこれを100%にして、避難者の負担を最小限に抑えることができように取り組みを進めている。

論点	避難生活において、トイレ環境が大きなストレスとなっている。その解消のためにマンホールトイレを設置してはどうか。
回答	事前に配管工事を行い、マンホールを整備する必要がある。流下型等であれば、水源としてプールの水を使用することになる。この送水手段を確保する必要性もある。国からの整備・運用のためのガイドラインを指針とし、今後の研究課題としたい。

2 市役所の耐震化工事について

論点	本庁舎の耐震改修工事以外の選択肢はなかったのか。
回答	大きく2つ。一つは建てかえ、もう一つが耐震補強という選択肢である。建てかえでの課題は二つ、建てかえに伴う市民合意、これには相応の時間が必要である。もう一つは、やはり財源の問題がある。そうした中、耐震化への緊急性がある。これらを総合的に判断すれば、耐震補強の選択肢とせざるを得ない。

論点	現在の市庁舎は、昭和38年に建設され、54年経過している。災害発生時の防災拠点として、耐震化工事の準備作業はどうか。
回答	平成26年度に耐震二次診断を実施。必要な耐震基準が満たされていないとの結果を受けて、庁舎耐震改修工事を検討する庁内プロジェクトを立ち上げた。協議検討の結果、整備内容も含めた耐震改修の基本計画を今年の2月にまとめたところである。

論点	仮設庁舎の設置から、本館機能を移転させることなく、居ながらの工事となった理由は。また、職員、利用者の安全は確保できるのか。
回答	当初考えていた仮設庁舎等への移転については、行政機能と市民サービスの低下が懸念されと同時に、システム移設費用の問題。多額となる仮設への移転費用と、投資効果が長期に及ぶ老朽化対策に市費を充てることの堅実性、こういったことを総合的に判断した。また、埴生中学校も同じ工事工法であり、居ながら工法を採用した。

論点	本館西側2ヶ所ある出入り口、この段差にスロープが無い。別館3階まで車いすでの移動手段が無い、抱えあげられる階段の幅もない状態である。本庁舎の現状の問題点の解消はどうするのか。
回答	指摘された点は十分に承知している。今回の改修工事については、まず耐震補強、それと機能確保のための対策と理解してほしい。各部署に対して、ヒヤリングを実施、聴取した内容も含めて十分精査をした上で実施設計に反映させたい。また、利用者の利便性という観点の中で、今後、年次的な改善にも努めていきたい。